

国立がん研究センター東病院肝胆膵外科

杉本 元一



私は日本肝胆膵外科学会留学制度の第九期生として、アメリカ留学をさせていただきました。今回はその3箇所目の滞在地である、カリフォルニア州ロサンゼルスにあるUCLAでの経験について書きたいと思います。UCLAでは2016年1月から3月まで滞在しました。

この留学制度の醍醐味の一つだと思いますが、まず施設間の移動についても書きたいと思います。過去の先生方と同じく、各施設間は自分の車で移動しました。今回は2015年12月31日にミネソタ州ロチェスターを車で出発し、アメリカ中央部を横断する約3500kmのルートでEl Dorado, Santa Fe, White Sands National Park, Roswell, Carlsbad Caverns National Park, El Paso, Tucson, Saguaro National Park, Cathedral cityを通過して、2016年1月7日にロサンゼルスに到着しました。真っ直ぐな道を延々と走り続けることもありましたが、国立公園などの大自然も満喫でき、徐々に温暖となり、メキシコの雰囲気も感じつつ、カリフォルニアに入ると都会的になり交通量が多くなり、アメリカの広さや多様性も実感できる旅となりました。

UCLAではDr. Donahueの下、研究と臨床の見学をさせていただきました。研究ではDavid Geffen School内のオフィスにデスクとコンピュータを割り当てて頂き、主膵管進展を伴う膵管内乳頭状粘液性腫瘍(IPMN)の悪性化リスク因子に関する研究と、腺房細胞癌・神経内分泌癌混合型腫瘍に対する術前化学療法後の外科切除例の報告をまとめました。臨床の見学については、2008年に開設されたRonald Reagan Medical Centerで、Dr. Donahueの非常に定型化された膵切除手術や、外来の見学もでき、毎週の多科合同カンファレンスにも参加できました。Dr. Donahueは若く気さくな人柄で、日常臨床の様々な疑問をよく話し合うことができました。Dr. Reberの非常に丁寧な膵頭十二指腸切除も見学させて頂くことができました。外来でも病棟業務でも、attending surgeonはもちろんですが、residentやfellow、また直接的な医療行為以外についてはphysician's assistantがとても重要な役割を果たしていると思いました。

ロサンゼルスではアパートはUCLAのすぐ近くのWestwood villageにしましたが、家賃も物価もこれまでの滞在地よりはるかに高い印象でした。ロサンゼルスは気候が良くとても過ごしやすく、UCLAのキャンパスは広く活気があり緑も多く、すぐ近くにハリウッド、ビバリーヒルズ、サンタモニカがあり、週末の気分転換は良くできました。UCLAでの滞在は短くはありましたが非常に充実したものとなりました。

本留学制度を経験させて頂き、あらためまして留学制度の創設者である高田教授、川原田教授、羽生教授、Traverso先生、Farnell教授、Sarr教授、Reber教授、本留学制度で留学された先生方、佐野教授をはじめとする国際交流委員会歴代理事の先生方、学会会員の皆様、日本肝胆膵外科学会事務局の皆様に厚く御礼を申し上げます。



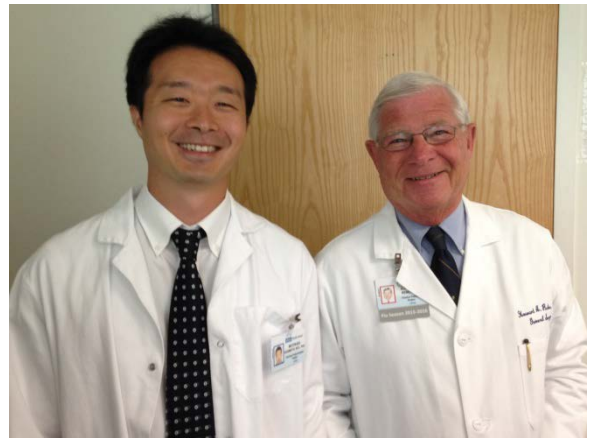
Ronald Reagan UCLA Medical Center



外来棟



David Geffen School of Medicine at UCLA



Prof. Reber と